

学び合い、高め合い、励まし合い、認め合う教育の追求

全国協同学習研究会会報 2009年度 3号

発行日：2009年12月15日

事務局

楽しい授業、楽しい学級？

教育を考える時に、子どもにとって「楽しい」事が大切だとしばしば言われます。確かにそうでしょう。これはしかし一方で、よりよい教育実践づくりを妨げる落とし穴のこともなりかねないと思うのです。

総合的学習の時間が設定され、教育現場では子どもの「体験」不足に感じることの重要性が当たり前のようにしていわれました。総合学習は「体験」を増やす場だと捉えられたきらいもないわけではありません。しかし、総合学習ねらいは文科省が言っているように、次の点にあったのです。

1. 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
2. 学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
3. 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

新しい学力として要請される力の育成の場であった総合学習が、「体験」ということばでめざす方向を一つにくくられて、その意義がぼやけたものになり、子どもが外に出かける、いろいろな人と話をする、学校にはない経験をすることでよしとする傾向が相当見られた様に思います。成果を追求するのではなく、活動させるだけの教育機会であったことが多かったのではないのでしょうか。子どもにどんな力がついたのかの検証はなされてきたでしょうか。「体験」を通してどのような力を育てるのかという、「一步踏み込んだ議論」が忘れられてしまっていたといえるでしょう。

さて「楽しい」ということばです。子どもの発達に伴ってその意味も変わっていくのでしょうが、たとえ1年生でも、少なくとも面白おかしいだけではいけないことは推測がつかます。実践者がイメージする「楽しい」の中身は何でしょう。

楽しい学級ということで、一つ感じていることに触れておきたいと思います。

このところ、構成的エンカウンターグループに代表されるようなグループワークのトレーニング・プログラムへの関心が高まっています。しかし、この関心の高まりには疑念があるのです。

グループ・ダイナミックスの研究では、グループにもさまざまなタイプがあることを明らかにしています。学級づくりを考える上で重要なタイプ分けに「人間関係志向的集団」「課題解決志向的集団」という分け方があります。前者は人間関係を良くすること、言い換えれば、なかよしづくりをめざす集団です。後者は、集団としての目標達成に向かって、集団メンバー同士のかかわりを調整し、成果をあげることをめざす集団です。

ゲームなどを通して育成しようとしている集団は、そのほとんどが前者であるように思います。「仲良きことは美しき哉」という武者小路実篤のことばそのままの世界です。確かに、仲のよい人間関係を多く持つことは人生を豊かにしてくれます。決して悪いことではありません。しかし、これも過去の集団研究が明らかにしていることなのですが、人間関係志向のなかよし集団は、課題解決集団としてはさほど優れてはいないのです。むしろ、なかよし関係を壊すことを恐れて、課題への取り組みを二の次にする傾向がしばしば報告されているのです。実際、構成的エンカウンターで培った人間関係が授業という課題解決場面に役立った事例はどれほどあるのでしょうか。小学校低学年の体育の授業の導入時に、そのエクササイズが活用されて一定の成功を見るというくらいにとどまっていはいないでしょうか。

学級づくりはむしろ教科学習、道徳、特別活動といった課題解決場面でなされるものだと思います。学校で見られる好例は部活の集団です。学校を背負ってよりよい成績を勝ち取るために、部員が協力し合い、互いを高め合う姿は、課題解決集団の典型です。そしてまた、そこで培った人間関係技能と、心情的な結びつきは極めて有意義なものにもなっています。部活のような学級づくりをという言い方もあながち間違っていない様に思います。

課題解決志向的集団は課題解決行動の中で育っていきます。まず仲良しを作って、それから学び合いをという戦略は、その二つがつながる保障は（まったく無関係ではありませんが）ないので、効果には疑問があります。集団づくりに随分余分な時間をとってしまいかねません。

「楽しい」学びの追求は大事なことです。しかし、和気藹々、面白おかしいという楽しさではなく、高め合う、学び合う、認め合う、励まし合うことを通して、仲間と共に一人ひとりが「成長する楽しさ」にまで、その中身を踏み込んで考えなくてははいけません。

実践者をなんとなく納得させるようなことばが教育の世界には他にもたくさん浮遊しているのではないのでしょうか。常に、子どもにどんな力をつけようとするのかという目当てを基礎において、それらのことばを吟味することが必要であるように思います。

全国協同学習研究会第 39 回大会開催される

10月31日、東京都東村山市立萩山小学校で、第39回全国協同学習研究会大会が開催されました。大会主題は

誰もが自己有用感のもてる学び合いのあり方

- ・一人一人の学びを成立させる学び合いの方法
- ・学び合いによる広がり、深まりをどうみとるか

全14学級で算数のジグソー学習を公開、生き生きと学び合う子どもの姿と、それを可能にする授業の仕掛け、工夫をたくさん見ることができました。

ジグソーの手法は、一方で教材研究を進めるきっかけにもなりうるものとして興味深いものです。さらに、集団メンバーが別の集団で学び合った成果を持ち寄るのですから、ここでは仲間に自分の分かっていることを伝えて共有し、共に成長するための務めという「個人の責任」が確実に育ちます。さらに、持ち寄った知識、理解を仲間で「練り上げる」機会を設定するにも効果的なものです。

萩山小では算数以外の教科にもこの手法を広げていくという方向性も示されました。

分科会では、小学校と中学校に分かれて6件の実践発表がなされました。

小学校

分絵	発表主題	発表者 所属・氏名	助言者
1	主体性のある子どもの協同的な学び 第5学年理科授業における一考察	宮崎市立小松台小学校 興 梶 大 輔	名古屋女子大学 和井田 節 子
	「わかる」「できる」「学び合う」 指導の工夫	東村山市立回田小学校 河 又 学	
2	協働学力の定義とその育成 算数科におけるジグソー学習	東村山市立萩山小学校 折 田 和 宙	大山市子ども未来センター 中部大学 有 本 高 尉

中学校

分絵	発表主題	発表者 所属・氏名	助言者
3	人権を考慮した数学科指導法	西東京市立田無第三中学校 田 中 博	久留米大学 安 永 悟
	子どもの学びを支援する地域と学校 とのネットワークづくり	野田市立第二中学校 大 関 健 道	
4	つながりあいながら主体的に学ぶ理 科授業	静岡市立清水飯田中学校 兼 田 博 光	同志社女子大学 大 黒 孝 文

さらに、犬山市の協同学習実践の紹介が、実践者の解説付きDVDで紹介されるワークショップも2件ありました。

分絵	発表主題	発表者 所属・氏名	助言者
5	・小学校国語科における協同学習	実践提供 犬山市立城東小学校 松本 哲 廣	中京大学 杉江 修 治
6	・中学校社会科における協同学習	実践とその解説 犬山市立城東小学校 水谷 茂	創価大学 関田 一 彦

最後は「自己有用感を育てる“学び合い”の学習と指導—自分らしさを創り合う学びの可能性を信じて」と題した、学習文化研究家の梶浦真氏の講演がありました。民間の教育研究者ですが、協同の意義について、協同学習研究会が追求してきた方向の意義を裏づける話を十分に聞くことができました。氏の著書に『協働学力』（教育報道出版社）があります。コンパクトで、読みやすいものです。

第39回も、充実した大会となりました。参加された多くの方々にいろいろお土産があったと思います。準備、実行に当たられた、山崎憲校長先生を始め、萩山小学校の先生方に深く感謝いたします。

新刊



神戸大学附属住吉中学校著

生徒と創る協同学習

—授業が変わる・学びが変わる

明治図書

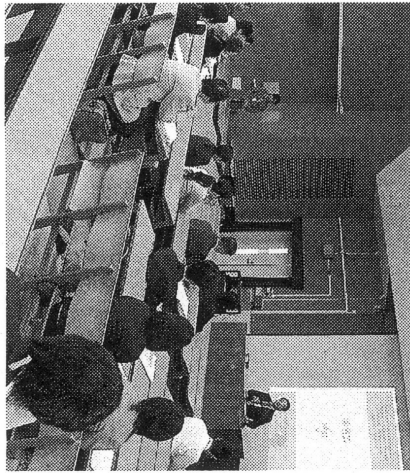
JASCEプレ大会の折に本書を入手した学校では、非常に役立つという評判です。

注文は住吉中学校に直接なさってください。そのほうが早いです。

日本協同教育学会第6回大会開催される

10月16日のJASCE大会について、教育新聞の記事をご覧ください。

日本協同教育学会が神戸大会



日本語教育研究科)三
岡交子教授(徳島大学
際ゼンター)の3人のシ
ンポジウムが、協同を
教育学会ならではの企
画。今回は、特に小学
校、中学校、高校、大

三ツツドグループは
参加者が積極的に交流
し、情報交換し合う協同
セミナーに、ワール
ドカフェ形式で密度の濃
い情報交流ができた。
このほか、研究報告
セッションでは、協同学

神戸大学附属住吉中学校
と共催で開かれた
……
学、それぞれの段階での
協同学習の実験を考える
三ツツドグループが開か
れ、すべての教育段階で
協同学習の取り組みが広
まっていることが印象づ
けられた。
特別支援教育のワーク
ショップは、「発達障害
山口県立大学で開催され
る。また、国際協同教育
学会の世界大会は、来年
来年の第7回大会は、
ていた。
する実践研究が報告され
る。また、様々な教育活動に関
する実践研究が報告され
ていた。
単なる技法としての協同
学習という枠を超えて
“協同”をキーワードと
する様々な教育活動に関
する実践研究が報告され
ていた。
携やプロジェクト・ベ
又学習(PBL)など
単なる技法としての協同
学習の実験を考える
三ツツドグループが開か
れ、すべての教育段階で
協同学習の取り組みが広
まっていることが印象づ
けられた。
特別支援教育のワーク
ショップは、「発達障害
山口県立大学で開催され
る。また、国際協同教育
学会の世界大会は、来年
来年の第7回大会は、
ていた。
する実践研究が報告され
る。

学教育学部教授
(久保田秀明・創価大)

「協同学習」で創る新しい学び

日本協同教育学会の第6回大会が10月16日から18日までの3日間、神戸に於いて協同学習の実績を築き、協同学習で創る新しい学び、持続可能な社会に生きる資質・能力の育成」を研究主題とした協議会に、学会と協同学習による「学力と評価の新しい地平」と題するシンポジウムといった多様な形態で現職の先生方と大学の研究者が実践的な情報交流をした。

大会企画シンポジウムでは、「言語教育における協同の意義を考へる」をテーマに、伏野久美子講師（立教大学ソング・セッション）、館岡洋子教授（早稲田大学大学院）が駆けられたこと。

日本協同教育学会の第6回大会が10月16日から18日までの3日間、神戸に於いて協同学習の実績を築き、協同学習で創る新しい学び、持続可能な社会に生きる資質・能力の育成」を研究主題とした協議会に、学会と協同学習による「学力と評価の新しい地平」と題するシンポジウムといった多様な形態で現職の先生方と大学の研究者が実践的な情報交流をした。

大会企画シンポジウムでは、「言語教育における協同の意義を考へる」をテーマに、伏野久美子講師（立教大学ソング・セッション）、館岡洋子教授（早稲田大学大学院）が駆けられたこと。

今後の研究会予定

12月25日 犬山市公開授業研究会

開始時刻 13時00分（受付12時30分～）

場所 犬山福祉会館4階中ホール

その他 参加希望氏名等を予め申し込んでください。

当日の予定

- 13:00 開会
- 13:10 小学校外国語活動ビデオ授業参観：城東小齋藤友希教諭
- 13:45 中学校国語（古典）ビデオ授業参観：犬山中倉地美穂教諭
- 14:30 第1回小グループ意見交換（他校・異校種との交流）
- 15:30 第2回小グループ意見交換（第1回の意見を基に別のグループで交流）
- 16:30 杉江先生の指導・助言
- 18:00 懇親会（自由参加です）

12月26-27日 第36回全国個を生かす集団を育てる学習研究協議会佐賀大会

大会テーマ 「自己価値力」を育てる教育の創造～確かな学力×自分への自信＝骨太の
学力

期日 平成21年12月26日（土）27日（日）

会場 国民宿舎虹の松原ホテル

内容 第1日目 基調提案
分科会（4分科会）
実践を語る夕べ

第2日目 総会
パネルディスカッション

詳しくは個集研HP <http://ww6.enjoy.ne.jp/~juntendo4649/> をご覧ください。

研究会情報をお寄せください。

事務局からお願い：e-mail アドレスをお持ちの方へ

この会報並びに様々なご案内を e-mail で送ってもかまわないという会員の方々は、空メールで結構ですので事務局宛()、アドレスをお教えてください。
経費節減という事務局の勝手なお願いですが、ご協力いただければありがたく存じます。